

# 安保法制(戦争法)の危険性浮き彫りに

## 「立憲主義と憲法9条を守る新潟県民の集い」で石川文洋さんが講演

先月29日、5回目の「立憲主義と憲法9条を守る新潟県民の集い」が長岡市のリリックホールで開かれ、参加してきました。

開会後のギター演奏に続いて行われた現地呼びかけ人を代表した三人の「一言スピーチ」、個性あふれた、力強いものでした。

前長岡市議の大平美恵子さんは、茨木のり子の詩を引用しながら、戦争法強行時のことに触れつつ、「怒りの火種は湿らせてはならない」と訴えました。二番手の長岡大学教授の児嶋俊郎さんは、「戦前から日本の官僚などは普通の人間を欺き、犠牲にしながら他国に侵略をし、大国の陰で利益をむさぼってきた。彼らの動きに歯止めをかけて、それとは違う未来をつくっていかう」と呼びかけました。ドキュメンタリー映画監督の小林茂さんは、豪雪地帯での生き方を問う映画「風の波紋」への協力を訴えたあと、いまの世の中を「ずばずば切り込む自作の詩を朗読、「ああ叫べ、叫べよわれら、希望がある限り叫べよ、希望に向かって叫べよ、希望を失っても叫べよわれら、われらの希望は銀河の夜を走っているのだ」と結びました。



今回の講演は著名な報道写真家・石川文洋さんです。「私が見た戦争と沖繩の基地」と題して約一時間半にわたり戦争の悲惨さや沖繩で

「引き継がれなかった」命のことなどを紹介し、平和を守ることの大切さを訴えました。

講演では自ら撮影した写真をスクリーンに映し出して話されましたが、講演の前半で紹介された一枚一枚の写真は先の安保法制(戦争法案)審議での政府答弁の欺瞞性をつくも

のでした。「後方支援で危険がせまってくれば中止して逃げると言っていたがそんなことはできるとは限らない」「兵站(へいたん)というのは戦闘部隊と同じだ。地雷、待ち伏せなどいろいろな形で攻撃される」「これまでも自衛隊が派遣されて殺し殺されることになかったのは奇跡に近い。今後は必ず起きてくる」などの言葉に説得力がありましたね。

紹介された写真のなかで私が一番強く印象に残ったのはベトナム戦争のときの若い二人のお母さんの写真です。住んでいた集落が攻撃され、何人もの自分の子どもを残し、たった一人だけ子どもを抱いて逃げる若い母親の切ない表情が映し出されていました。

集いの最後は集会宣言。新婦人の樋口ナミさんが「戦争法廃止まで絶対にあきらめない。立憲主義と憲法9条を私たちの手に取り戻す」などと読み上げ、全会一致で確認されました。(写真は講演する石川文洋さん)

### 談合防止の本気度が問われている

いまの市政は本気で公共工事入札における談合を防止する気があるのか疑問に思いましたね。

12月議会の総括質疑で、日本共産党議員団の上野公悦議員は、(仮称)厚生産業会館建築工事及び電気設備工事の入札で「談合の状況証拠」とも言われている「一位不動」(入札が複数回行われたとき、一番低い価格を入



【ミツマタ】冬を前にしたこの時期にミツマタのつぼみにお目にかかれるとはびっくりしました。漢字で「三叉」と書きます。春になれば、一早く黄色の花を咲かせるのですが、心配です。

れた業者が毎回変わらないことを言います)が起きたことや、入札が不調に終わっても(電気設備工事)最低価格を入れた業者と随意契約に持っていたことをとりあげ、市長の考えをたどりました。

これにたいして市長は、「この案件をみて、一位が変わらないということ、あやしい、調査することにはならない。結果して、意欲のある業者のみなさんが対応したということだ」と答え、まったく問題はないという認識を示しました。

これまで全国オンブズマンが「一位不動」について「談合の状況証拠」だと指摘していることや裁判の判決で「談合の典型的特徴」といわれたこともあることを全く無視した答弁です。ひどいもんです。

## 日本共産党大演説会 ぜひお出かけください

「国民連合政府」の呼びかけ、国会内外の最新の情勢を語ります。

日時：12月12日(土)

14時から16時

会場：リージョンプラザ

弁士：宮本徹衆院議員

上野公悦市議

平良木哲也市議

橋爪法一前市議

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1735 2015.12.6

発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一

検索

# 春よ来い

第三八三回

天然ナメコ

秋が深まり、紅葉の時期が終わろうとしています。ずっと前から、野菜などを乾かしたくなるようないい天気の日里山の中をゆっくり歩き、落ち葉を踏みしめてみたい、そう思っていました。

十一月のある日、私は事務所で原稿書きをしていました。なかなか書き進まず、落着かなくなり、車を数分走らせ、ナラやモミジなど生い茂った林に入りました。ここはこれまで何回か入り、大きい横長のドングリを見つけたり、リスなどの小さな動物たちに出合ったりしてきた場所です。

私が入ったところは標高が五〇〇メートルあるかないかの里山です。林の縁にはわずかに葉を残しているモミジの木とか、すでに葉が散り、実だけをつけたムラサキシキブなどがありました。それらをデジタルカメラで撮った後、林のなかを歩きました。林の中には背の低い雑木があちこちにあり、それらを右に左にと避けながら進むと、ヤブコウジの赤い実がいくつも見えました。寒くなり、野の花がほとんど見られなくなったところ、この赤い実に出会うと、なぜかうれしくなります。

さらに進んで行くと、ミズナラ、モミジなどの葉が落ちて、たくさんたまっているところへ出ました。私はこの落ち葉の上を歩いた時の感覚、音が大好きなんです。今度は携帯電話のカメラを使い、この様子を動画で撮ることにしました。ザツ、ザツという音がよく響きます。カメラを体の前方で動かしながら、記録していききました。

薄茶色のものが私の目に入ったのは動画を撮りはじめてから二〇秒ほど経ったときでした。大きな枯れ木の下の方にキノコがどかどかとまとまって出ていました。近づいてみると、明らかにナメコです。体が震えましたね。目の前に天然のナメコが出ている、しかも大量に出ているのですから。私は数年前の冬、尾神岳の南に連なる二〇〇メートルほどの山でナメコがたくさん出ている木に出合ったことはあります。でも、そのときのキノコはほとんど枯れて食べ頃とは程遠い状態でした。ぬるぬるして色つやもある美味しそうな天然ナメコは今回が初めてです。

こうなると、もう散策どころではありません。ナメコを採ることに集中しました。採ったナメコを入れるものがないかあたりを見渡すと、ほうの葉が落ちています。これが入れるものとしては一番大きなものでした。手で下の方から少しづつ採っては葉の中に入れてみました。目の前にあるものをひと通り採ってから、木の反対側に回るとそこにもびっしりとナメコが出ていました。ほうの葉が何枚あっても足らないくらいです。

このままでは採りきれないと思い、私はいったん家に戻ることになりました。家に戻って、もう一度、ナメコの出ている場所に着くには一五分から二〇分はかかります。落着いて考えれば、この間に他人に採られることはまず考えられないのですが、それでも気になるんですね、大急ぎで山を下りました。

再びナメコの出ている現場に戻り、手の届く場所に出ているものをすべて採り終わるまで五分とかかりませんでした。採ったナメコはナイロン袋にふたつにもなりました。そのうちの一個は柏崎の妻の実家へ持って行くことにしました。残りの一個はいうまでもなく自家用です。コタツに入っていた母にナメコを見せたところ、「あらまー、うんまそうだない」と言ってくれました。母はその日のうちに、天然ナメコが入ったご飯を炊いてくれました。「キノコ入りまんま」は今年二度目です。

## 西沢博青年学生部長が街頭演説

先月26日、日本共産党新潟県委員会の西沢博青年学生部長（参院新潟選挙区予定候補）が大型宣伝カーに乗って上越市入りし、高田、直江津、頸城、大潟、吉川、柿崎などで

街頭演説を行いました。これには平良木、上野両市議の他、私も同行しました。

西沢さんが上越市内で街頭演説するのは前回の参院選以来です。私が同行したのは吉川、柿崎区をまわった時です。2時間弱の時間帯で場所を変えながら街頭から4回訴えました。

西沢さんは36歳。青年の立場から力を込めて訴えました。戦争法案（安保法制）審議で明らかになった危機一髪の後方支援の実態や派遣された結果、心を病み自ら命を絶った青年が57人



にも上ったことを紹介しながら、戦争法廃止を、そのためには戦争法廃止の一点で力を合わせる国民連合政府をとのべていました。雨風にもかかわらず、車から手を振ってくださる方、車庫でじっと聴いてくださる方などがあり、励まされましたね。（写真は柿崎区米山寺にて撮影）

## 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月25日(水)	12月2日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.053	0.050



## 新婦人の旗も登場

市内各地で行われている戦争法（安保法制）廃止を求める行動で新日本婦人の会の「みんなの力で戦争法を廃止する新しい政府を!」と書かれたイラスト入りの旗が登場し、話題になっています。写真は浦川原物産館近くの国道沿いでの行動でかかげられた旗です。